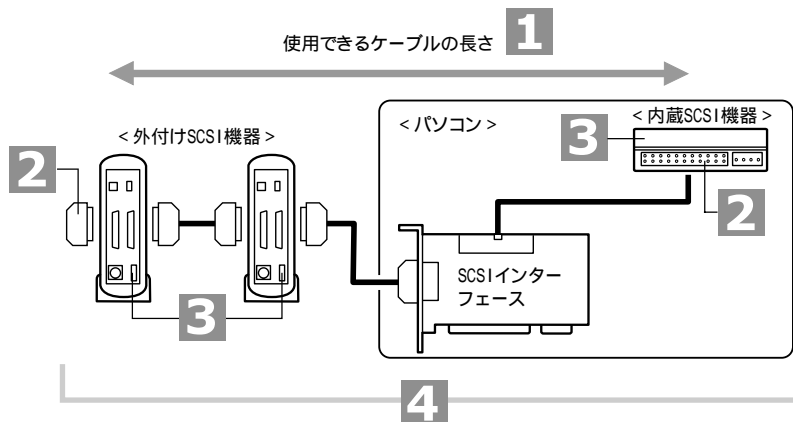
3 接続しよう

本製品をパソコンに接続する手順を説明しています。

接続時の注意

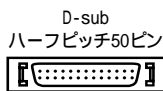
本製品やSCSI機器を接続する時の注意事項を、次の図の 1 ～ 4 で説明しています。必ずお読みください。

1 SCSI ケーブルとコネクタ

● 本製品を接続するSCSIインターフェースがUltra SCSI対応かSCSI-2対応かによって、接続できるSCSI機器の台数と、接続に使用できるSCSIケーブルの長さの合計が異なります。

SCSIインターフェースの種類	接続台数	ケーブルの長さの合計(*1)
Ultra SCSIインターフェース(*2)	1～3台	3m以下
	4～7台	1.5m以下
SCSI-2インターフェース	7台まで	6m以下

*1 ケーブルの長さの合計には、SCSI機器の内部に配線されている部分(10～20cm程度)も含まれます。

*2 Ultra SCSI対応のSCSI機器を使用するときは、SCSI機器の台数が多くなるほどSCSIケーブルの長さの合計を短くする必要があります。ケーブルの長さが1.5mを超えるときは、Ultra SCSIインターフェースの転送速度をSCSI-2相当(理論値10MB/sec)に変更すれば、ケーブルを6mまで使用できます。転送速度の変更方法は、SCSIインターフェースのマニュアルを参照してください。

● SCSIケーブルとSCSI機器のコネクタ形状が合っているか確認してください。
付属のSCSIケーブルは両端ともD-subハーフピッチ50ピンです。パソコンやSCSIインターフェースのコネクタ形状によっては、別売の弊社製接続キットと組み合わせて接続する必要があります。

本製品および付属のSCSIケーブルのコネクタ形状は、こちらです。

次のページへ続く

● 接続に使用するSCSIケーブルの特性インピーダンス値を統一してください。特性インピーダンス値は、SCSIケーブルのパッケージやケーブル自体に印刷されています。弊社製SCSIケーブルの場合は、約90Ωに統一されています。

● SCSIケーブルは一般的なSCSI-2の標準に適合したものを使用してください。

● SCSIケーブルを接続する前に、コネクタのピンが折れたり曲がったりしていないか確認してください。

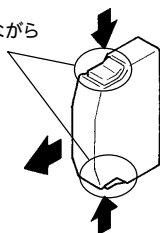
● Macintoshに接続するときは、弊社製接続キットDCK-ADAPを別途ご購入ください。

2 ターミネータ（終端抵抗）

● デイジーチェーン（*）の終端に接続するSCSI機器には、必ずターミネータを取り付けてください。ターミネータ機能を内蔵するSCSI機器を終端に接続した場合は、ターミネータ機能を有効にしてください。
内蔵SCSI機器の場合も、SCSIケーブルの終端（1台目用のコネクタ）に接続するSCSI機器は必ずターミネータ機能を有効にしてください。

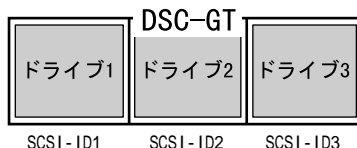
* 複数のSCSI機器をケーブルで直列につないだ状態

● SCSIケーブルやターミネータを取り外すときは、クランパ（2箇所）を押さえながら引き抜いてください。
SCSIケーブルやターミネータを取り付けるときは、カチッと音がするまでしっかり差し込んでください。

● SCSI機器のコネクタ形状に合ったターミネータを用意してください。本製品のコネクタ形状はD-subハーフピッチ50ピンです。弊社製ターミネータDKC-TDや、弊社製SCSIインターフェースボード（IFC-NSPを除く）に付属のターミネータを使用してください。

3 SCSI-ID

● 複数のSCSI機器を併用するときは、SCSI-IDが他のSCSI機器と重複しないように変更してください。

● 本製品を複数のドライブに分割して使用する場合、SCSI-ID設定スイッチで設定した値から連続するSCSI-IDが、分割した各ドライブに割り当てられます。【P73「SCSI-IDの設定」】

例）本製品を3つのドライブに分割している場合、SCSI-ID設定スイッチを1にすると、各ドライブにそれぞれSCSI-ID1、2、3が割り当てられます。

● SCSI-IDは0～6の範囲で設定してください。7は通常SCSIインターフェースが使用します。0から順に1、2、3...と連続して設定することをおすすめします。
本製品のSCSI-IDは出荷時に0に設定されています。

⚠注意 芯が折れたり、砕けた芯の粉末が発生する鉛筆などの筆記具は使用しないでください。

SCSI-ID設定スイッチをボールペンの先などで押して設定します。
SCSI-ID設定スイッチの位置はP8を参照してください。

4 システム全般

⚠注意 **パソコンおよび本製品は精密機器です。巻頭の「安全にお使いいただくために必ずお守りください」を必ず参照してください。**

● 取り付け作業をするときは、必ずパソコン本体と周辺機器のマニュアルを参照してください。

● 取り付け作業を始める前に、必ずパソコンの電源スイッチをOFFにしてください。

● 大切なデータを守るため、パソコンと周辺機器の電源スイッチをOFFにする前にアプリケーションをすべて終了し、ハードディスクなどに記録されているデータを他のメディア（フロッピーディスクなど）に保存してください。

● 取り付け作業を始める前に、次の物を用意してください。
- 本製品および付属品
- パソコンと周辺機器のマニュアル
- Ultra SCSI/SCSI-2インターフェース
  ※ 弊社製Ultra SCSI/SCSI-2インターフェースが必要です。
  ※ 取り付け方法などは、Ultra SCSI/SCSI-2インターフェースのマニュアルを参照してください。
- ターミネータ（D-subハーフピッチ50ピン用）

● 複数のSCSI機器を接続するとき
システムの動作が不安定になる場合があります。その場合は、次の方法で回避できることがあります。
- Ultra SCSI対応機器（本製品を含む）をデイジーチェーンの終端、またはその近くに接続する
- できるだけ短いSCSIケーブルでSCSI機器を接続する
- 接続しているSCSI機器の電源スイッチをすべてONにする

以上の作業を行っても回避できないときは、接続するSCSI機器の台数を減らしてください。

メモ **Ultra SCSIインターフェースを使用すると、データ転送速度（理論値）がSCSIインターフェースの2倍になりますが、データをやり取りするタイミングが厳密になるため、複数のSCSI機器を接続した場合に動作が不安定になることがあります。**

本製品の設置

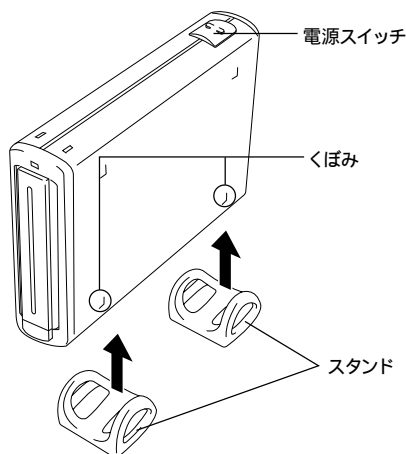
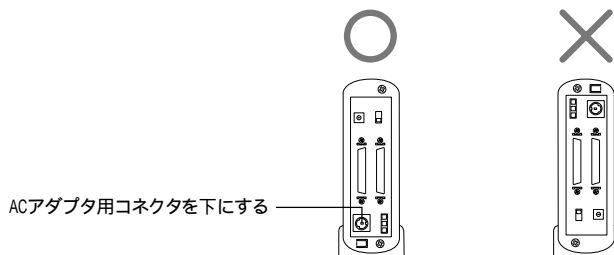
本製品は縦置き、横置きの2通りの置きかたができます。

注意 ・設置作業をする前に、本製品の電源スイッチを必ずOFFにしておいてください。
・動作中に本製品を移動させたり、設置方向を変えないでください。本製品の破損の原因となります。

メモ ・本文中では、本製品を縦置きにした場合を例に説明しています。
・付属のスタックスペーサを使用すれば、横置きにした本製品を合計3台まで積み重ねられます。【P26「本製品を積み重ねる場合」】

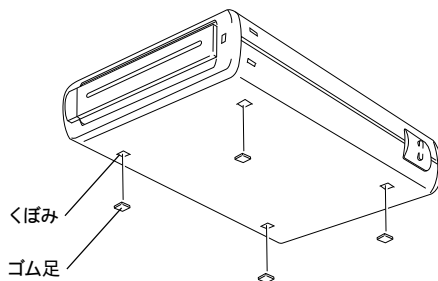
縦置きにする場合

図のように、本製品のくぼみに合わせて、付属のスタンドを取り付けます。

電源スイッチが上になるように設置してください。

本製品を背面から見たときに、次の状態になるように設置してください。

次へ イルミネーションパーツを取り付けます。【P24「イルミネーションパーツの取り付け」】

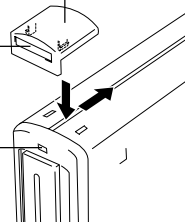
横置きにする場合

図のように、付属のゴム足（4個）を本製品底面のくぼみに取り付けます。ゴム足には両面テープがついています。

⚠注意 ゴム足を付けるとスタンドが取り付けられなくなるため、本製品を縦置きできなくなります。

本製品を背面から見たときに、次の状態になるように設置してください。

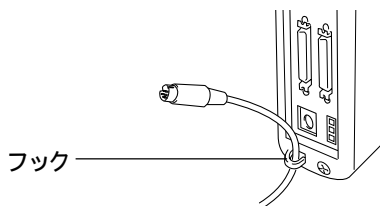
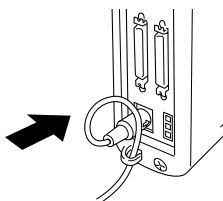
次へ イルミネーションパーツを取り付けます。【P24「イルミネーションパーツの取り付け」】

イルミネーションパーツの取り付け

お好きな色のイルミネーションパーツを取り付けます。

メモ パワーランプは、イルミネーションパーツを取り付けたときに適切な光量になるように設計されています。イルミネーションパーツは必ず取り付けてください。

次へ ACアダプタを接続します。【P25「ACアダプタの接続」】

ACアダプタの接続

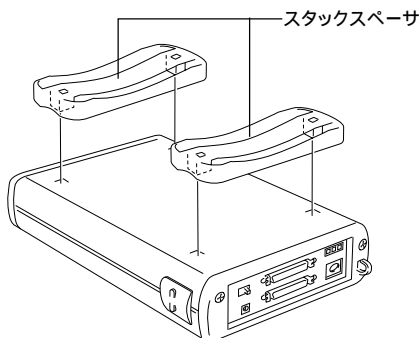
1　ACアダプタのケーブルをフックに引っかけます。

2　図のようにケーブルを巻き、ACアダプタのプラグを本製品に差し込みます。

次へ　本製品とパソコンを接続します。【P27「パソコンとの接続」】

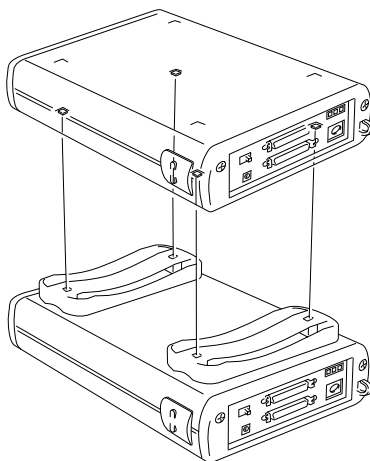
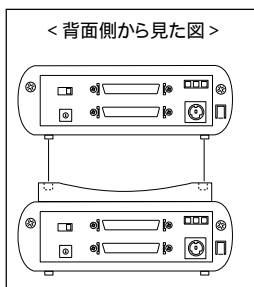
本製品を積み重ねる場合

付属のスタックスペーサを使用して、横置きにした本製品を合計 3 台まで積み重ねることができます。

⚠注意 合計4台以上積み重ねないでください。積み重ねた本製品が倒れやすくなります。倒れた場合、衝撃により故障するおそれがあります。

1 本製品すべてに、付属のゴム足（4個）を取り付けます。
【P24「横置きにする場合」】

2 ハードディスク上面のくぼみに合わせてスタックスペーサ（2個）を載せます。

3 上に重なるハードディスクのゴム足を、スタックスペーサのくぼみに合わせて載せます。

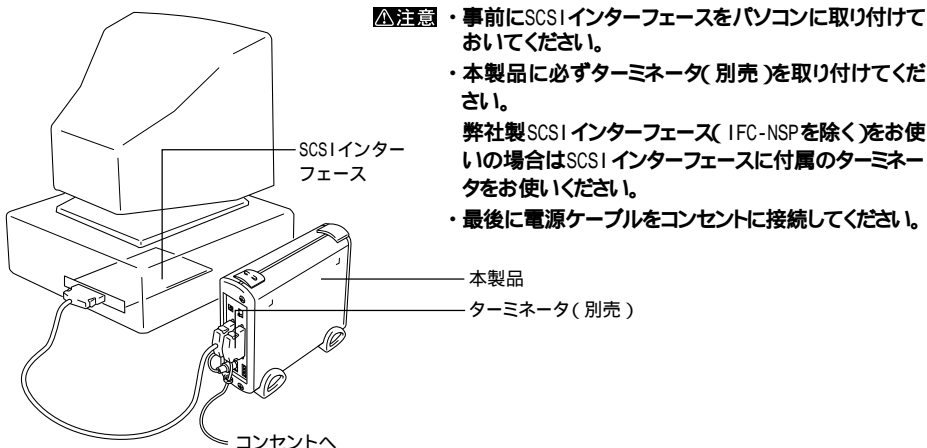
<背面側から見た図>

メモ 弊社製DiF-GTシリーズ、MOiFシリーズ、MOS-S640Rを積み重ねることもできます。弊社製MOU-Rシリーズは積み重ねられません。

パソコンとの接続

⚠注意 事前にパソコンと周辺機器（本製品を含む）の電源スイッチをOFFにしてください。

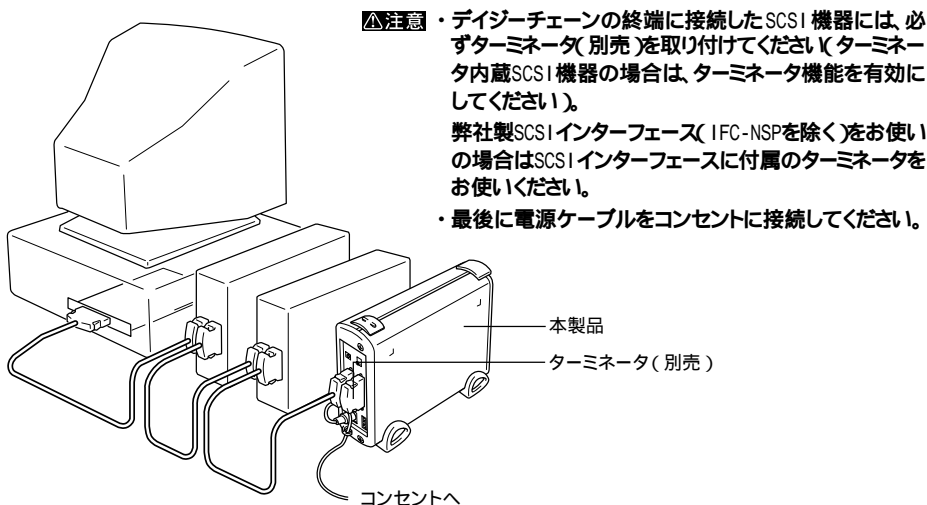
本製品だけを接続する場合

⚠注意
- 事前にSCSIインターフェースをパソコンに取り付けておいてください。
- 本製品に必ずターミネータ（別売）を取り付けてください。

  弊社製SCSIインターフェース（IFC-NSPを除く）をお使いの場合はSCSIインターフェースに付属のターミネータをお使いください。
- 最後に電源ケーブルをコンセントに接続してください。

SCSI機器が複数台ある場合

下の図は、本製品をデイジーチェーンの終端に接続した場合の例です。

⚠注意
- デイジーチェーンの終端に接続したSCSI機器には、必ずターミネータ（別売）を取り付けてください（ターミネータ内蔵SCSI機器の場合は、ターミネータ機能を有効にしてください）。

  弊社製SCSIインターフェース（IFC-NSPを除く）をお使いの場合はSCSIインターフェースに付属のターミネータをお使いください。
- 最後に電源ケーブルをコンセントに接続してください。

取り付け後の作業

本製品の使いかたに応じて次の作業が必要です。

1　本製品の使いかた（分割方法）に合わせて、それぞれ次の設定を行います。

・本製品を分割せずに１台のドライブとして使用する場合
特に設定は必要ありません。出荷時設定のまま（モードスイッチが０、ブートスイッチが１）で使用できます。

・本製品を３等分して３つのドライブとして使用する場合
モードスイッチを３に設定する必要があります（ブートスイッチは何に設定しても構いません）。
詳しい設定方法は、「２ 本製品のスイッチを設定しよう」【P18】を参照してください。

・本製品を３等分以外の分けかたで分割する場合
モードスイッチを７、ブートスイッチを１に合わせ、付属の「スーパーセレクトドライブ・ユーティリティ」で分割のしかたを設定してください。
その後、本製品を３分割したときはモードスイッチを３に、２分割したときはモードスイッチを２に設定してください。【P66「ハードディスクを分割する（スーパー・セレクト・ドライブ機能）」】

2　使用しているパソコンとOSに応じた手順で本製品をフォーマットします。

本製品を分割するときは、分割してできたすべてのドライブをフォーマットします。詳しいフォーマット手順は、次のページを参照してください。

パソコン	OS	参照ページ
DOS/V機、PC98-NXシリーズ	WindowsMe/98/95	【P31、32】
	Windows2000	【P40、44】
	WindowsNT4.0/3.51	【P47】
	Windows3.1、DOS	【P49】
PC-9800シリーズ	Windows98/95	【P52、53】
	Windows2000	【P58】
	WindowsNT4.0/3.51	【P62】
	Windows3.1、DOS	【P63】

⚠注意
・本製品は物理フォーマットだけが施された状態で出荷されているため、取り付け後に初めて使用する際に論理フォーマットする必要があります。
・ノートパソコンでWindowsMe/98/95、Windows3.1、DOSを使用しているときは、SCSIカードに付属のフォーマッタで本製品をフォーマットしてください。OS付属のFDISK.EXEは使用できません。SCSIカードにフォーマッタが付属していないとき（*）は、SCSIカードのメーカにお問い合わせください（弊社製SCSIカードには、全てフォーマットプログラムが付属しています）。
　* WindowsMe/98/95では、付属CDに収録されている「Disk Formatter」でフォーマットできます。
・Macintoshをお使いの場合は、別売の弊社製接続キットDCK-ADAPに付属のフォーマッタで本製品をフォーマットしてください。詳しい手順は、フォーマッタのマニュアルを参照してください。

3　本製品を起動ドライブとして使用するときは、OSをインストールします。

インストールするOSを別途用意し、OSのマニュアルを参照してインストールしてください。

⚠注意
- DOS/V機、PC98-NXシリーズを使用しているときは、本製品に基本MS-DOS領域を作成し、OSをインストールしてください。
  また、パソコンのBIOSを設定したり、内蔵のIDEハードディスクをパソコンから取り外したりする必要もあります。詳しくは、パソコンメーカにお問い合わせください。
- ノートパソコンや、SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース（弊社製IFC-NSPなど）を使用している場合は、本製品などのSCSIハードディスクを起動ドライブにすることはできません。

使用上の注意

- 本製品を起動ドライブにしない場合は、OSやアプリケーションをインストールする必要はありません。本製品をフォーマットしたら、そのまま使用できます。
- WindowsまたはDOSで使用する場合は、8.4GBを超える容量のハードディスクに対応しているOSやSCSIインターフェースを使用してください。
  対応OSについては「仕様」【P81】を参照してください。
  対応SCSIインターフェースについては、別紙の「本製品-GTシリーズの対応SCSIインターフェース」を参照してください。
  8.4GBを超えるハードディスクに対応していないOSやSCSIインターフェースで本製品を使用する場合は、本製品を3つのドライブに分割して、各ドライブの容量を8.4GB未満にして使用してください。容量が8.4GBを超えるドライブを作成したときは、8.4GB分しか認識されません。
- Windows95で本製品を使用する場合、Windows95のバージョンによってフォーマット手順が一部異なります。本製品をフォーマットする前に、次の手順でWindows95のバージョンを確認してください。

1　[マイ コンピュータ] アイコンをマウスの右ボタンでクリックします。

2　表示されたメニューから [ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ(R)] を選択します。

3